

令和元年度第4回宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（1月7日）  
における主な意見要旨

ページ	意見概要
宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略（初案）について	
市民の宇治への愛着度について	
P29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民の宇治への愛着度」を数値目標とされていますが、愛着を感じるかどうかは、いろいろな施策を実施した結果であり、目標とすることに違和感があります。愛着を高めるために、その手段として教育（宇治学など）が使われることはいかなるものかとも感じます。</li> <li>・創生総合戦略における「数値目標」は目標というより結果を判断するための指標であり、問題はないように思います。</li> <li>・愛着について市から強制されるものでなく、また、指標を集計するためのアンケート回答においても、回答者は違和感なく答えていると思いますので、このままの指標で良いと思います。</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">→ アンケート調査結果では定住意向と愛着度が相関関係にあることから、定住人口の確保に向けては愛着の醸成も一つのキーワードになると考えており、数値目標として据えています。最終案に向けましては、ご意見を踏まえて、教育委員会の考え方など、庁内で議論しその結果を次回の会議に報告させていただきたいと思います。</p>
子育て環境に関するハード整備について	
P37 P45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人・物の交流の活性化事業」において、歩行者の安全安心について事業として明確に定める必要があると思います。他市では歩道に車が突っ込むような事故もありましたので、バリアフリー以外の施策も定めていく必要があると思います。</li> <li>・子育て世代のニーズを捉え、子育ての希望をかなえるまちづくり、子育てに夢を持ち子育てしたいと思えるまちづくりを実現するとありますが、通学路の安全性など、その具体的などころが見えないと思います。ハード整備事業が困難なのであれば、ソフト事業を強化していくなどの具体的な記載が良いのではないかと思います。</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">→ この間、市といたしまして、歩行者の安全安心に関し、バリアフリーの整備以外にも通学路の点検・整備等について取組を進めています。その取組も含めて、分かりやすい表現となるように検討します。</p>

P47	<p>アンケート結果を改めて見ると、ボール遊びができる公園やベビーカーなどを押して安全安心に歩ける道路を求める意見が多いことが分かります。それに対する施策などを「子育て支援環境充実事業」の中に具体的に記述されてはどうか。</p> <p>→ 公園・道路に関するニーズを踏まえまして、子ども・子育て支援計画とも整合を図り、検討します。</p>
—	<p>アンケートの結果で子育て環境の主にハード面の整備に対して意見が多く、若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくりが大変重要であると考えますが、子育てしやすい環境や出産しやすい環境についての満足度は20%台であり、市民に対する満足度の向上を重点的に取り組み、結果として愛着の醸成に繋げていくことも必要であると思います。</p>
現状維持とするKPIについて	
P31	<p>KPIの「生涯学習人材バンク利用率」の目標値ですが、もう少し利用率を上げる目標にされても良いのではないのでしょうか。生涯学習人材バンクの取組をもっと知っていただき、利用していただくことで、市民主体の地域コミュニティの担い手の発掘・育成にも繋がっていくと思います。</p> <p>→ 目標値につきましては、担当課と改めて調整させていただきます。</p>
P37	<p>KPI「主要バス停乗降客数」の目標値達成は、バス事業の運転手不足によるバスの便数の確保の問題や地域のバス路線が減便している中で公共交通体系づくりに関する取組を実施するなど、非常に難しい状況にあると思いますが、目標値の設定はどのような考え方でしょうか。</p> <p>→ 減少傾向にある中でも平成28年度及び平成29年度は若干上回っている状況もあり、このような現状を踏まえる中で現状維持を目標として定めています。</p>
P41	<p>数値目標について、市内事業所数は現状維持ですが、市内従業者数は増加することとなっています。1事業所あたりの従業者の就労人数を増やすということでしょうか。また、現状維持とするのは、企業誘致などで新たに増える事業所数を勘案しているということでしょうか。</p> <p>→ 市内事業所の人材不足の状況もあり、市内従業者数が増加するように取り組んでいきたいと考えています。市内事業所数の基準値としている平成28年度の値は、前回の調査結果と比べると大きく減少しており、減少分を企業誘致等図ることで現状維持していく目標としています。</p>
P41	<p>全国的に見ても中小企業者数が減少している状況があり、直近2年間で23万社の中小企業が減っている情報もあります。平成28年経済センサス時において、宇治市でも新規事業所数を廃業事業所数が400以上、上回っており、令和3年に目標値を達成するのは非常に厳しい状況もあると思いますので検討いただけたらと思います。</p>

<p>P37 P41</p>	<p>K P I「主要バス停乗降客数」「市内事業所数」は、目標を定めてそれに向かって努力をすることが創生総合戦略の主旨でもあり、現状の傾向から推定される値を目標値にすると何も努力しなくても良いとなりかねませんので、そういう意味では現状維持というのは相当の努力が必要だということの表れであると思います。</p>
<p>その他施策の記載内容について</p>	
<p>P34</p>	<p>多文化共生促進事業のK P I「行政・生活情報にかかるコミュニケーション支援数」とは、個々の人に支援者を派遣する事業のように捉えたので、取組・事業など加えて分かりやすくすべきと思います。 → 取組・事業の数であることが分かりやすい表現となるように検討します。</p>
<p>P36</p>	<p>「市民が楽しく歩くことで健康寿命を延伸し、健康長寿日本一を目指す」と記載されていますが、観光客が周遊する場所と一緒に歩くことで市民の健康長寿日本一を目指すのですか、食事や運動も必要であると思います。 → 健康長寿日本一については、32ページ「誰もが健康で生き生きと暮らせる宇治づくり推進事業」にソフト事業を位置付けており、ご指摘の36ページにはその健康づくりに向けたハード整備事業の位置付けで整理し掲載しています。</p>
<p>P48</p>	<p>昨年度、宇治市では妊娠期から子どもの発育発達への切れ目のない支援を掲げて、子育て世代包括支援センターを設置されており、包括的な相談についてK P Iに定めることも一つであると思います。子育て世代包括支援センターは創生総合戦略に記載されているのでしょうか。 → 子育て世代包括支援センターは、事業説明や窓口業務を運営していくための組織ではありますが、創生総合戦略への位置付けについては担当課と調整します。</p>